Once upon a time in Utsunomiya

一枚の絵葉書から
石井敏夫コレクションより
第79回

大正時代の宇都宮

一九一二(明治四十五)年七月三十日、明治天皇の逝去に伴い、元号は「大正」と改められた。「大正」の語源は、古代中国の占筮(せんぜい)『易経(えききょう)』彖伝(たんでん)・臨卦の「大亨以正、天之道也」に由来し、「大いに亨りて以て正しきは、天の道なり」の意味を持つ。「大正天皇実録」によれば、元号案としてこの他に「天興」「興化」「永安」など合わせて六案が検討されたという。

時代的には十五年という短期間であったが、国外では第一次世界大戦(一九一四〜一九一八)やロシア革命、ドイツ革命が勃発。国内では米騒動、シベリア出兵、関東大震災(一九二三〜一九二四)など後世に残る大事件が次々に発生した。世界史的にみても激動の時代だったといってよい。

しかし、大正時代は「大正デモクラシー」と呼ばれる自由主義的な風潮が幅広く国民に浸透。呉服店が百貨店に変身し、日本最初の歌謡曲の「カチューシャの唄」(松井須磨子)が誕生するなど大衆文化が一斉に花開いた。また、民主主義の根幹である言論、集会、結社の自由を求める社会運動が起こり、国民に等しく選挙権(満二十五歳以上の成人男子)を与える普通選挙法が一九二五(大正十四)年に成立した。

大正7年の池上町大通り

「宇都宮市ハ帝都ヲ距ルコト二八里八町ノ北ニアリ戸数一二、二二二戸人口五六、六八七人(大正七年十二月現在)ヲ包容スル東北有数市街地ニシテ写真は市街ノ中央池上町大通リヨリ東方ヲ望ミタルモノ」。これは、宇都宮市発行の絵葉書「宇都宮市街ノ一部」に記された解説である。

まだ、車の通りはないが、大通りの中央には電柱が建ち並び、蔵遺りの商家が軒を連ねている。左側角の建物は下野新聞社。その後方の小山は二荒山神社の杜である。

一九一六(大正六)年十月、本多市長の辞任により谷誠之が第三代市長に就任。一九一八(大正八)年四月には、第十四師団に動員命令がくだりシベリアに出兵した。同年六月には、川崎参一郎が市長に就任した。『宇都宮市史第七巻』によれば、「普選実現を目的とした大日本交友会が結成され、労働者約四〇〇名を組織して発会」の記述がみられる。相生町に洋風三階建ての上野呉服店(のちの上野百貨店)が誕生したのは一九二五(大正十四)年十月のことだった。宇都宮も国内外の動きと、その歩みを一にしていたことが分かり興味深い。

大正 12 年の池上町大通り。下野新聞社は鉄筋コンクリート三階建てに変身。右側手前は料理屋の第一八百駒。電柱も道路両脇に移動されている